

### 3. ICTを活用した「次世代型保健医療システム」の考え方



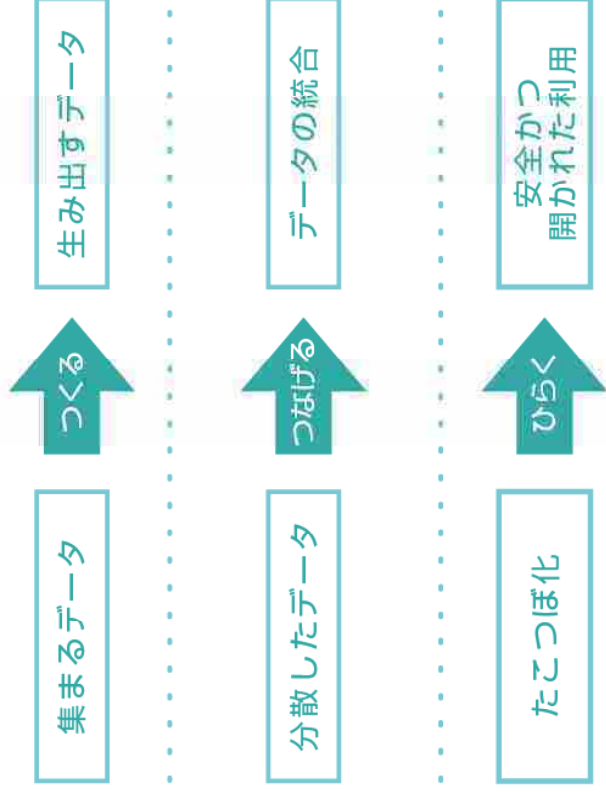
保健医療分野でのICT活用の「基本理念」：患者・国民の「well-being※」の実現

「基本理念」を達成するために創出すべき「4つの価値軸」

- ①患者本位の最適な保健医療サービス (Value for patient) / ②国民全員の主体的な健康維持 (Value for people)
- ③持続可能な保健医療提供システムの実現 (Value for community) / ④医療技術開発と産業の振興 (Value for service)

#### 「3つのパラダイムシフト」と「3つのインフラ」

##### 【3つのパラダイムシフト】



##### 【3つのインフラ】

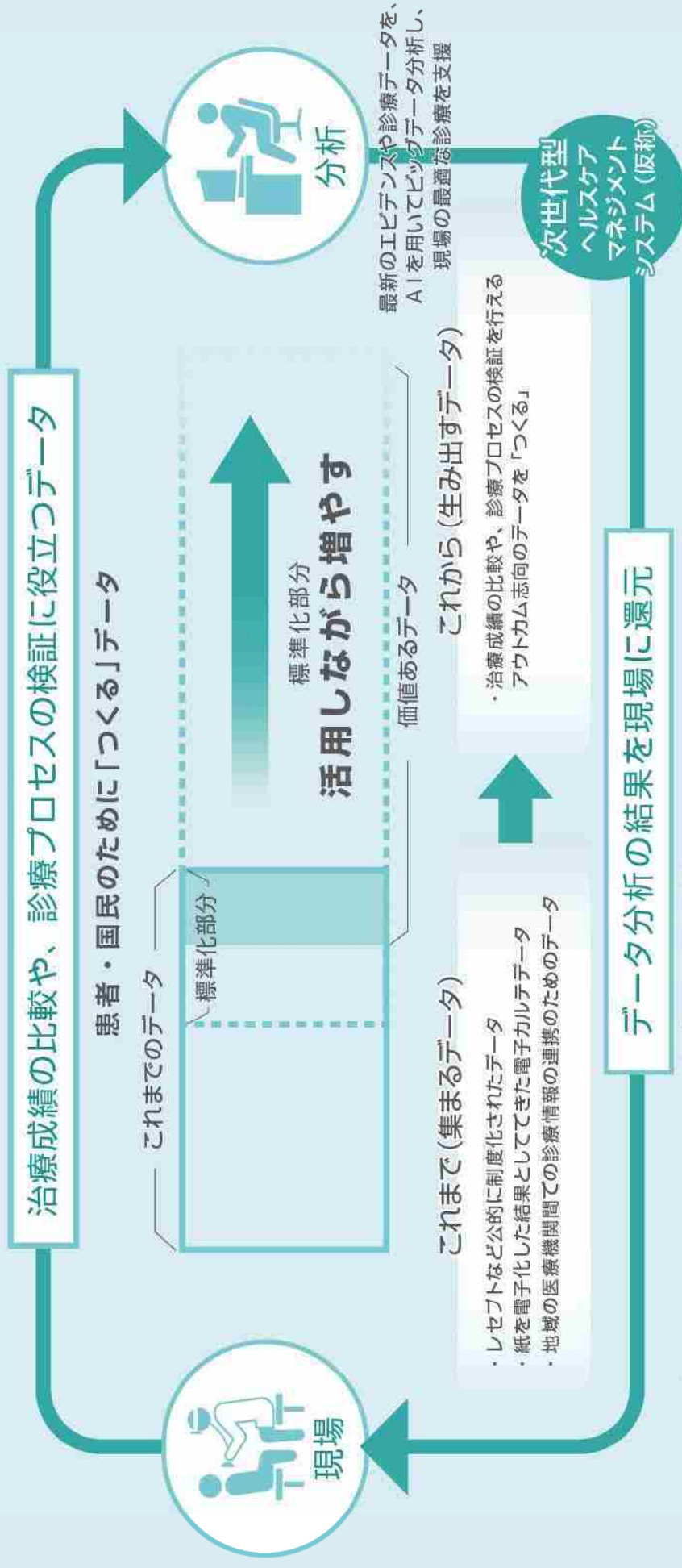
- ◆ 次世代型ヘルスケアマネジメントシステム（仮称）
  - ・最新のエビデンスや診療データを、AIを用いてビッグデータ分析し、現場の最適な診療を支援
- ◆ 患者・国民を中心に保健医療情報をどこでも活用できるオープンな情報基盤 (Person centered Open Platform for wellbeing; PeOPLE (仮称))
  - ・個人の健康などから疾病・介護段階までの基本的な保健医療データを、その人中心に統合
  - ・保健医療専門職に共有され、個人自らも健康管理に活用 (全ての患者・国民が参加できる)
- ◆ データ利活用プラットフォーム（仮称）
  - ・「PeOPLE」(仮称) や目的別データベースから、産官学の多様なニーズに応じて、保健医療データを目的別に収集・加工 (匿名化等) ・提供

※well-being：人々の様々な生き方に対応し、国民が健やかに暮らし、病気・ケガの際には最適な医療が受けられ、いきいきと活躍し続けることができる状態・社会

## 4-1. 患者・国民にとって価値あるデータを「つくる」

集まるデータ ▶ 生み出すデータ

- ◆ データ収集段階から、データの集積・分析・活用（出口）で使えるアウトカム志向のデータを「つくる」。
- ◆ 最新のエビデンスや診療データを、AIを用いてビッグデータ分析し、現場の最適な診療を支援する「次世代型ヘルスケアマネジメントシステム（仮称）」を整備。
- ◆ データ分析の結果を現場へ還元・活用しながら、現場主導でデータを見直し、増やしていく自律・自走のサイクル（エコシステム）を構築。



※NCD(National Clinical Database)での入力データの例

【手術前】患者の年齢・性別など基本情報 | 手術の対象臓器、術式 | 他臓器での病変の有無 | 対象臓器ごとの必須測定項目（例：心臓外科→クレアチニン値（腎機能障害を示す））

【手術後】術後の合併症の有無

【データの入力により、個々の事例について、必要なデータの測定漏れを防止。蓄積データを活用して、推奨される治療法の確認、通用外の治療への注意喚起等を実施。】

## 4-2. 患者・国民中心にデータを「つなげる」

分散したデータ ▶ データの統合

- ◆ 個人の健康なときから疾病・介護段階までの基本的な保健医療データを、その人中心に統合する。
- ◆ 保健医療専門職に共有され、個人自らも健康管理に役立てるものとして、すべての患者・国民が参加できる「患者・国民を中心に保健医療情報をどこでも活用できるオープンな情報基盤（※PeOPLE（仮称））」を整備。

※ Person-centered Open Platform for wellbeing

### PeOPLE(仮称)

Person-centered Open Platform for wellbeing

患者・国民の基本的な保健医療データを統合。



個人の疾病・健康状況に合わせた最適な保健医療が受けられる。

A I 等の技術を活用したアルゴリズムを組み込み、質の向上・効率化を図る

※PeOPLEへの参加は、患者・国民一人ひとりの同意を原則とする。

## 4-3. 保健医療の価値を高めるためデータを「ひらく」

安全かつ開かれた利用

たこつぼ化

- ◆ 保健医療分野のデータを「ひらく」ことで、産官学のさまざまなアクターがデータにアクセスして、医療・介護などの保健医療データをビッグデータとして活用する。
- ◆ 「PeOPLE」(仮称) や目的別のデータベースから、産官学の多様なニーズに応じて、保健医療データを目的別に収集・加工 (匿名化等) 提供できる「データ活用プラットフォーム (仮称)」を整備。

